

5月16日(土曜日)「将軍と若い娘」

【新改訳 2017】

Ⅱ 列王記 5・1－14

「アラムは……イスラエルの地から、ひとりの若い娘を捕らえて来ていた。彼女は……その女主人に言った。『もし、ご主人さまがサマリアにいる預言者のところに行かれたら、きっと……ご主人さまのツアラアト(皮膚病)を直してくださるでしょうに。』」(2、3節)

「将軍と若い娘」と言えば、身分の差ゆえのままならぬ恋の物語を想像されるかも知れませんが、ここでは少し違います。

捕囚の身の若い娘が、自分が仕えている女主人の夫君、時の王国の将軍ナアマンが皮膚病で悩んでいるのを聞いて、「イスラエルの預言者なら、きっと直してくれるでしょう」と語った話です。このひとことで、ナアマン将軍は救いを求めて、遠いサマリアへ旅立ちました。

人が苦悩している時は、身分や年齢にかかわらず救いを求めます。そのような時には、だれが語っても、希望を与えてくれることばがその人を動かすのです。私たちも、「福音」をもっと思いきって語るべきではないでしょうか。

～祈り～

主よ。悩んでいる人を見た時、この娘のように、私たちも確信をもって福音を証しできる者になりたいです。どうぞお助けください。

【学びのために】

聖書のツアラブ(皮膚病)については、今日、医学名の「らい」(ハンセン病)ではないことが、医学的にも、考古学的にも明らかになっています。ハンセン病は、今では良薬により治療することになっており、患者を強制隔離する「らい予防法」も廃止されるに至っています。